

私を捕まえらるなら – トム・アレクサンドロビッチの事件

2025年8月2日から7日にかけて、ブラックハットUSAサイバーセキュリティカンファレンスがマンダレイベイで開催される中、ネバダ州の法執行機関はオンライン上の児童捕食者を対象とした複数機関による摘発作戦を実施しました。**ネバダ州インターネット児童犯罪対策（ICAC）タスクフォース**は、FBI、Homeland Security Investigations、ラスベガス首都警察、ヘンダーソン警察と協力し、オンラインで未成年者を装い、犯罪を証明するチャットログを収集し、意図を確認するための会合を計画しました。

8人の男性が逮捕されました。その中に、会議に出席していた**トム・アルティオム・アレクサンドロビッチ**、イスラエルの高級サイバー当局者がいました。彼は2025年8月6日に**ヘンダーソン拘留センター**に収容され、**NRS 201.560**に基づく**コンピュータを使用して児童を性的行為に誘引する罪**で起訴されました。これは**カテゴリーBの重罪**で、**1～10年の懲役と最大\$10,000の罰金**が科せられる可能性があります。

このような摘発作戦はラスベガスでは一般的で、2024年の作戦では同様の罪で18人の男性が逮捕されました。ここで異例だったのは、容疑者の一人、イスラエルの国家サイバー防衛を担当する人物が、2週間足らずでイスラエルに帰国していたことです。

トム・アレクサンドロビッチとは誰か？

アレクサンドロビッチは些細な官僚ではありませんでした。彼は首相府の直接の権限下で運営される**イスラエル国家サイバーディレクストレート（INCD）**内の**技術防衛部門の責任者**でした。

- 彼は、アイアンドームミサイル防衛シールドをモデルにしたイスラエルの野心的なAI駆動型サイバー防衛システム**サイバードーム**の設計に貢献しました。
- 彼はその貢献により**イスラエル防衛賞**を受賞しました。
- 彼は**ベンヤミン・ネタニヤフ**首相や他の高官にサイバー防衛、AI戦略、国家の回復力について助言しました。
- 彼のLinkedInプロフィール（逮捕後すぐに削除されました）は、彼を国家機密に広くアクセスできるエグゼクティブディレクターおよびサイバーセキュリティリーダーと説明していました。

イスラエルの**先制安全保障**のドクトリンを考慮すると、アレクサンドロビッチの役割は純粋な防衛を超えて、**攻撃的な情報作戦**にも及んでいたと推測するのが妥当です。イスラエルのサイバーユニットは、扇動を防ぐ名目でMeta、Google、Xと**コンテンツ削除依頼**を調整することで

知られていますが、実際にはイスラエルに不利な政治的コンテンツを抑圧することが多いです。

イスラエルのAIの頭脳として、アレクサンドロビッチはこれらの検閲システムの自動化に関与していた可能性が高く、テロ対策として装ったデジタル・ハスバラ、つまり物語の管理の一種でした。これにより、彼は単なるサイバー防衛者ではなく、**イスラエルのオンライン影響力キャンペーンの戦略的守護者**でもありました。

保釈条件 – 何が起こるべきだったか

ネバダ州の法律によれば、保釈は以下を反映する必要があります：

- **犯罪の重大性**：児童誘引は重大な重罪であり、保釈金は非常に高額に設定されるか、完全に拒否されることがあります。
- **証拠の強さ**：摘発作戦は通常、チャットログや意図の証拠を含む確実なデジタル記録を生み出します。
- **逃亡リスク**：アレクサンドロビッチはネバダに何のつながりもなく、イスラエルに住んでおり、迅速に国外を離れる手段を持っていました。
- **財政的資源**：保釈金は被告にとって重要な額でなければならず、ネバダの労働者階級を抑止する額が裕福な外国の役人にとって小銭であってはなりません。

一般的な被告の場合、このようなケースでの保釈金は**\$50,000～\$150,000**で、次のような条件が課せられることがあります： - **すべてのパスポートと旅行書類の提出** - **電子監視** - **ネバダ州内の地理的制限** - 場合によっては**保釈の完全な拒否**

しかし、アレクサンドロビッチは**逮捕の翌日に\$10,000の保釈金**で釈放されました。

これは意味のある抑止力ではありませんでした。アレクサンドロビッチの実際の収入はほぼ確実に**年間\$300,000～\$600,000 USD**の範囲で、もしそれ以上でなければ、政府の給与の公表平均をはるかに超えていました。多くのイスラエルのサイバー当局者と同様に、彼はおそらく**コンサルティング、業界とのつながり、または防衛契約への間接的関与**を通じて政府の給与を補っていました。彼にとって、\$10,000は財政的障害ではなく、低賃金の労働者にとっての**交通違反の罰金**に相当するものでした。

さらに悪いことに、彼の**パスポートが没収された**という公開記録はありません。2つの可能性が考えられます：1. **彼はイスラエルのパスポートを保持することが許可された**、明らかな逃亡リスクである人物に対する重大な見落としです。2. **パスポートが提出された場合**、イスラエル大使館が**緊急旅行書類**を発行した可能性があります。

いずれにせよ、米国当局が彼を**飛行禁止リスト**に載せていれば、彼の出国は阻止できたはずでした。それは起こりませんでした。8月17日までに彼はイスラエルに帰国し、ネバダの検察官が最初の本質的な公聴会を準備する時間もなく去りました。

イスラエルの利害

なぜイスラエルはそんなに迅速に行動したのか？それはアレクサンドロビッチが単なる官僚以上の存在だったからです。

- 彼は**サイバードームの構造**とそれが保護する脆弱性を知っていました。
- 彼はネタニヤフに**AI戦略と国家の回復力**について助言しました。
- 彼はおそらくイスラエルが海外の世論を形成するために使用する**オンライン検閲メカニズム**について深い知識を持っていました。
- 彼は**イスラエルのサイバー同盟**に関する洞察を持っていました。

イスラエルにとって、高級サイバー戦略家がネバダの刑務所に座り、尋問、情報漏洩、または司法取引に脆弱である可能性は耐え難いものでした。

政府の対応は示唆的でした。当局者は当初、彼が「尋問されただけ」で逮捕されておらず、「予定通り」帰国したと主張しました。その後、サイバーディレクストレートは彼が「相互の決定」で休職にされたことを認めました。矛盾は、**現実を軽視し隠蔽するための協調した努力**を示唆しています。

より広範な影響

アレクサンドロビッチ事件は一人の男以上のものです。それは**正義、外交、国家安全保障**の不安な交差点を暴露します。

- **正義**：彼の立場にある普通の被告なら、高額な保釈金、監視、裁判に直面していたでしょう。アレクサンドロビッチは一晩の拘留で自由になりました。
- **外交**：寛大な保釈は単なる司法の失態だったのか、それともスキャンダルを避けたいイスラエルと米国の当局者による**外交的裏取引**の結果だったのか？
- **秘密**：もし彼が米国の拘留下に留まっていたら、アレクサンドロビッチは圧力、偶然、または司法取引の交渉で、イスラエルの**サイバーハスバラ作戦**の詳細を明らかにし、削除や検閲が舞台裏でどのように管理されているかを暴露したかもしれません。

前例もあります。イスラエルには海外で犯罪を犯した国民を保護する長い歴史があります： - **サミュエル・シェインベイン（1997）**：米国の殺人罪で起訴された後、イスラエルに逃亡し、イスラエルは引き渡しを拒否しました。 - **マルカ・レイファー**：オーストラリアで児童性的虐待の罪で起訴され、イスラエルからの引き渡しに10年以上抵抗しました。 - **サイモン・レヴィエフ（「ティンダースウィンドラー」）**：ヨーロッパの詐欺罪を逃れ、帰還法によって保護されました。

この観点から、アレクサンドロビッチのイスラエルへの帰還は偶然ではなく、**よく知られたパターン**のように見えます。

結論：誰が誰を支配するのか？

一般の人々にとって、ラスベガスの摘発作戦は高額な保釈金、パスポートの提出、長い法廷闘争で終わります。アレクサンドロビッチにとっては、ヘンダーソン拘留センターでの一泊、

\$10,000の保釈金、迅速な帰国便でした。

この格差は、より大きな不安な質問を投げかけます：**米国の主権はどこで終わり、外国の影響が始まるのか？**

国家機密を委ねられ、オンライン検閲システムを設計した疑いのある高級外国当局者が、アメリカの司法システムからこれほど簡単に逃れられるなら、**地政学が正義を上回る**ことを示唆しています。

最終的に、トム・アレクサンドロビッチの事件は、摘発で起訴された一人の男についての話だけではありません。国家機密と強力な同盟が絡むとき、**正義は交渉可能になり、保釈は象徴的になり、法の支配は政治的重圧の下で曲がる**という不快な現実についての話です。